

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200485		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム ハートフル		
所在地	岐阜県関市下有知5367番地4		
自己評価作成日	平成21年8月19日	評価結果市町村受理日	平成21年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170200485&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム ハートフルでは、併設施設との連携が取れている為、利用者が重篤な状態になり、ご家族の希望があれば24時間併設施設の看護師と連携を取り看取りケアを行っています。また、協力医の先生にも往診等など24時間体制での連携がとれるシステムとなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木造平屋建てのぬくもりと安心感が感じられる造りのホームである。24時間体制の協力医と隣接の特別養護老人ホームにも看護師が24時間配置されている。ホームの理念「福祉の原点はサービスである。サービスに徹する」を基に「わははと笑い、まめかなと声をかけ」のキャッチフレーズを作り、職員は笑いのなかで利用者の生活を支えている。理念を基に非常勤も含む全職員が、自分の趣味、特技(料理、野菜作り、イベント、絵手紙等)を活かした目標を設定し、日常支援の場で実践している。年に2回、目標に対する振り返りをしながら意見交換を行うことで理念を共有している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 実 践	外 部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	福祉の原点は、サービスである。サービスに徹するの基本理念のもと、部門目標を設定し、各自が個人目標を持ち実践出来る様、年2回目標に対しての振り返りをしながら理念を共有している。	ホームの理念「福祉の原点はサービスである。サービスに徹する」を基に職員は利用者と共に生活をしている。各自の特技を活かした目標を持ち実践し、年2回の振り返りを行うことで意欲を高めている。独自の取り組みが理念の共有につながっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議委員に地域代表で民生委員の方に参加して頂いたり、毎年地域の小学校の運動会に参加をしている。	一般の住宅地よりかなり高台に建設されており、地域との交流は多少難しい状態にある。校区の学校の行事に参加したり、自治会等のつながりは、民生委員、利用者の家族を通じての交流にとどまっている。	地域とのつながりがもてるよう地元の行事への参加など出来ることから取り組まれない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元福祉系の大学実習生の受け入れをしています。又地域の小・中・高等学校よりボランティア活動も受け入れています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時は、利用者様やご家族も参加して頂き意見など伺います。年5回開催。改善課題ではガスコンロからIH調理器にして欲しいと要望があり、昨年度交換済み。	運営推進会議は年5回開催し、家族には代表に限らず参加を要請し、ホームに対する意見を出してもらいサービス向上に活かしている。	さらには、福祉に対する次世代教育と地域の窓口を広め、ホームが地域の福祉拠点となるよう運営推進会議を活用されたい。	
5	(4)	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	5回/年運営推進会議への参加、又家族会行事参加案内を送付しています。担当者から情報などをいただくことができる。	運営推進会議には参加を得ている。地域との連携など現場の状況を伝え連絡を密にしている。提示された様々な課題、情報から気づきを得て改善につなげる場合もある。困難な問題などを相談したり、法改正など指導も受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置。出入りする人を感じし、音で知らせる。玄関の施錠は、日中はしていない。また、研修で身体拘束をしないケアを学習し、実践に努めている。	職員は「いかなる場合も身体拘束をしてはいけない」と、利用者が自由に生活のできる環境を守り、鍵をかけないことが当たり前の考えとされている。玄関にはセンサーが設置され、日頃から職員が目配りと気配りを行う取り組みがされている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	パンフレットや制度の説明などを玄関に掲示し、又相談を受ける時は、パンフレットなどで説明しております。			

岐阜県 グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、内部研修を受け全体会議にて発表している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする前に事前面接を行い、家族、利用者の不安や要望を伺うと共に十分な説明し、家族に同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に、市役所より介護相談員(2名)の来所があり、明るい雰囲気を作って話しやすいようにしている。	家族会は作られている。管理者は運営推進会議とホームの行事を同日に開催することで、利用者家族の参加を得て要望や意見を出してもらい、運営に反映している。利用者、家族、職員が常に一体でありたいという思いが強い。退居後の家族とも連携があり、意見も出しても	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	家族会行事時、アンケート用紙を配布、回収し、反省会をしている。そこで意見交換をし、次年度の行事等の開催に反映させていただいている。	職員は、月1回のグループホーム会議で運営に対する意見や提案を提出している。職員の個人目標に対する気づきや困難事例など管理者を含めて全体で意見交換を行いサービスにつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には、希望休3日と年休をとってもらい、また法人目標にそった部門目標をたて各自の個人目標を設定することで、職員の「やる気」をひきだす取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就業年数に応じた研修計画がある。また、資格がとれていない職員には、ヘルパー2級の資格の取得の確保を目指してもらう体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会中濃支部に加入しており、意見交換をして交流を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時、利用者・家族がゆっくり話しが出来る様に傾聴に心掛けている。併設の居宅サービスを受けておられた方も多い為、居宅サービス提供中にグループホームの職員が声を掛けて様子を伺ったり、他職員より情報をもらいながらしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時は十分に話を伺い、入所まで期間がある時は、電話で様子を伺い相談に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族のニーズに応じて、併設施設の相談員と連携をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔のおやつ作りや、季節の食べ物、畑で収穫したやさいを使った食事、週に一度の外出(喫茶店・買い物)などを通じて共に生活を共有してます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会行事3回／年開催し、又家族の方には運営推進会議委員として参加して頂き、職員と共に利用者様に安心・安全な生活を送って頂ける様名関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスやショートステイを利用していた方については、当時の知り合いとの関係が続くように配慮している。	法人施設での交流、行事に参加する等馴染みの人との関係が継続できるよう支援している。地域の友人が気楽に訪問してもらえるよう配慮している。利用者にとって何より嬉しいのは家族の訪問であるため、家族が参加できる行事を計画し実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方それぞれの相性があり、好き嫌いもあるので食卓の座る場所や居室の配置等配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方より、退所後も草引きや外出の際の支援をしたいと申し出があった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接時や入所に至るまでに、ご家族との電話連絡を密にして、想いを把握するように努めている。また、暫定プランを作成する時にもお聴きしている。	事前の面接で、これまでの生活を基準に利用者、家族の希望を聞き、納得できるまで時間をかけて意見交換を行っている。暫定プランをもとにアセスメントを行い、介護計画を作成し、さらに家族に説明して内容を深めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時には、特にご家族やご本人より生活歴をじっくり伺い、バックグラウンドアセスメントに詳細な記録をし、ケアカンファレンスに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後、暫定プランから本プランまでの間に、生活経過記録をしっかりと記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の中で、ご本人の想いや希望などをさりげなく伺い、担当者に記録として残し、ご家族とも相談しながらご本人の意見を反映出来るよう、個別に検討し介護計画の作成をしている。	職員は利用者ごとに担当が決められており、利用者の個別記録には誰もが分かるよう記録している。利用者の希望や不安など、日常、相談のしやすい雰囲気を作り、意見を受け止め、必要な関係者と話し合い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度変更し、訂正して、利用者・ご家族様に説明している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の応援を受け、急な受診等対応している。特養の看護師も、24時間体制に関して対応している。特別な外出では併設施設の運転手の応援を受けることがある。		

岐阜県 グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度、運営推進会議の開催に合わせて、救命方法を消防署員より教わりました。また落語研究会のOBの方が2回／年ボランティアで着て頂き利用者の方を楽しませて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じ、かかりつけ医の受診を希望される方はそのように対応している。特に無い方には、往診がして頂ける協力医にお願いをしている。	利用者のかかりつけ医への受診は家族が行っている。かかりつけ医を特に決めていない利用者は、月2回定期的に往診のある協力医や歯科協力医に受診してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師に逐一報告し、指示を仰いでいる。また、夜間は、看護師が、連携しているので、健康管理等に十分対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院者が出た場合、管理者または、副主任が1回/週は、面会に伺い家族より状態を聞き、また病院関係者への情報交換などをして、家族、利用者の相談など対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医に24時間連絡を取れるよう協力して頂き、又、併設特養看護師にも24時間連絡をとれる対応をした。ご家族には、夜間泊まって頂いたりと協力を依頼し、常に協力医、看護師、家族、職員と相談をしながらターミナルケアにとり組むことができた。	重度化や終末期については、入居時に併設の特養老人ホームへ移ることもあり得ることを説明し、事前に確認書を取っている。24時間協力医と連絡が取れる体制のなかで、家族の協力、管理者、職員の連携をもとにターミナルケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修でAEDの操作を学び、実際にグループホームで急変された利用者さんに、看護師が使用しました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で2回／年避難訓練の様子を見て頂き「もし何かあればいつでも協力しますよ。」と委員の方に言っていたいっている。	運営推進会議と同日で避難訓練を実施し、委員や家族から「何かできることがあれば協力したい」などの声が聞けた。年に2回開催することができたが、今後は訓練の開催時間を変えた取り組みも視野に計画し、スプリンクラーについても設置を検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支持						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への個々に合わせた声掛けを行っている。居室への訪室の際、必ずノックや確認をしている。個人情報に関しては、法人が、5大原則を定めている。	各利用者の個性を尊重したサービスの提供に努めている。まず職員は利用者の生活歴を把握し、個々の特性に合わせ人生の先輩として誇りやプライバシーを傷つけることのないようミーティングなどで確認している。居室へ入室の際は必ず挨拶をするよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、入浴は何時ごろが良いとか、食事で何が食べたいか伺い、常にオープンクエッションの声掛けに留意している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気や季節に応じて、利用者さんに意見や希望を聞き外出支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、訪問美容室を利用して頂いている。1回／2ヶ月 行きつけの床屋への送迎を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に食事の盛り付け、配膳、テーブル拭きなどや、食後の後片付けの手伝いを声掛けによって行って頂く。	利用者と職員が、一緒に同じ内容の食事を食べることにより、味付けなどその場で誉めたり、今後の参考にしたりと、食事時間は利用者と職員の楽しい時間となっている。食事中に次のメニューを決めることも多い。食事介助の必要な利用者には、同じペースで食べられるように配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理時には、栄養バランスを考え、献立も同じような物が、重複しないよう気をつけている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩の口腔ケアに加え、昼食前に手洗いと一緒にうがいも行っている。			

岐阜県 グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の排泄のパターンに合わせた時間帯のトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を活用し、職員は利用者にトイレ誘導を行っている。個々に応じた自立に向けた気持ちを大切にし、排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の献立、食材やメニューを考えて提供している。朝食にバナナヨーグルトを必ず付ける。運動の為、犬の散歩や、特養へ散歩に出かけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおまかな入浴日は、決めているがその日の気分や体調で変更する事がある。また、色々な入浴剤で今日は、何にするか伺い、楽しんで頂いている。	入浴は利用者の楽しみであるが、利用者の体調を把握し、週3回程度を目安に職員が付き添い支援をし、満足してもらえるよう努めている。体調の悪いときは清拭、足浴を行うなど柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の気分や体調に応じてリクライニングソファで休息したり、居室で静養して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自分の服用されている薬に関しては、周知されている。新しく処方された薬においては、本人に説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫茶店・買い物・外出などに行きたいと言われる利用者の方には、一回／週の外出支援をしている。また、利用者の方が利用者のお世話をされたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設施設内で行われる行事には必ず参加している。年間での外出支援は全員で参加が1回、少数での外出支援は4回／月、買い物などは1回に全員の方をお連れ出来ない為、ある程度の順番や体調を考慮して行くようにしている。	法人が行う行事には参加している。高齢化が進み、最近は敷地内の外出が多く、戸外の空気にふれる外気浴も実施している。年間行事計画を決め外出支援を行っている。毎週木曜日を買い物や喫茶店などの外出日とし、順番に同行している。	

岐阜県 グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理できる人には、自分で管理して頂き、買い物の際は自分で支払って頂いている。管理が困難な方にも、買い物の際の支払いができるようよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方の都合を入所時に伺い、事務所より電話をかけていただいている。家族から届いた手紙は、職員が読み聞かせている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ2箇所には赤いのれん、お風呂場には、「湯」と書いたのれん、浴室窓には、シャワーカーテンをかけ、日差しよけにしている。	ホームの裏に広がる森に面して大きな窓があり、いながらにして四季おりおりの季節感を楽しむことができる。木造の良さを活かし、落ち着いた雰囲気とぬくもりがある。廊下も広く、混乱を招くような障害物もない。出来る限り自然な温度調整が行えるよう網戸が多く取り付けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内には、ソファや椅子が、点在しており、自分の好きな場所で、自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しく入所された方には、事前に家で使用していたタンスやテレビ等お持ち頂いている。敷き布団も持って来て頂いている。	窓が全開できる設計であり、どの居室からでも外に出られる。風通しが良い。使い慣れた好みの物を持ち込み「私の部屋」と自信を持ち、本人が心地よく生活している。部屋の入り口には好みののれんが掛けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ゆっくり、優しく、声掛けをしている。隣に座って、一緒に歌を歌ったりしながら、安心して生活を送れるよう支援している。		

2 目標達成計画

作成日：平成 21年 10月 10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	住宅地より高台に併設の特別養護老人ホーム奥に建物がある為、地域との交流は困難な状況である。校区の学校行事に参加したり、民生委員・利用者の家族を通じての交流に留まっている。	地域とのつながりが持てる様、グループホームの行事など記載したハートフル新聞を発行して地域との交流を図れる様に部門目標として取り組む予定を立てている。	①個人情報保護に留意し、家族の皆様新聞の配布について理解して頂けるよう、運営推進会議時に議題として取り上げ協力して頂けるよう取り組む。(個別に載せる写真を見せて了解を得る)	6 か月
2			地域の学校等などにハートフル新聞を配布しグループホームの存在を理解して頂き、交流を図れる様に取り組む。	①ハートフル新聞を発行し気軽に来所して頂ける施設だとアピールをする。 ②ハートフル新聞にボランティア募集を記載し、学校の生徒達の活動が出来る場所になれる様に取り組む。	6 か月
3				③地域の学校の行事に見学に行ったり、又グループホームでの行事など参加して頂ける様新聞を通して呼びかける。	か月
4					か月
5					か月

注1) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

注2) 項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入してください。